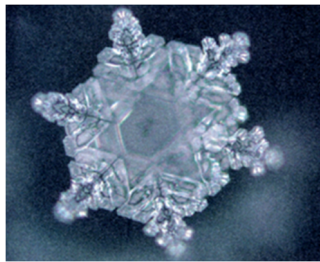


「水は何でも知っている。」

昨年在籍していた諸岡先生から 1 冊の本を紹介してもらったことを、ふと思い出しました。その本は「水は何でも知っている。～その結晶に込められたメッセージ～」という本です。非科学的で、諸説ありますが、水に「ありがとう」という言葉を見せたり言ったりして、凍らせ、その結晶を見ると形のととのったきれいな結晶になる。それに対して「ばかやろう」という言葉を見せたり言ったりした水は、美しい結晶がつかれない。このことは何を意味しているのか。「ありがとう」という言葉は、あらゆるものに影響を与えて、よいものに変えてしまうという内容です。



私たちは、日頃、人に温かい言葉をどれぐらいかけているでしょうか？人をほめるのが苦手という人はたくさんいます。「照れくさくて言い出せない」、「どうほめていいかわからない」、そういった素直な理由だけでなく、中には複雑な理由をあげる人もいます。「下心があるみたいでイヤだ」、「わたしがほめて喜ぶんだろうか」、と考えてしまう人です。

ところが相手は違うのです。特別な評価を求めているわけではなく、「たまにでいいから」、「少しいいから」、ほめてもらおうと嬉しくなり、いい気分になったり、安心したりするのです。

ほめ方は、短くて簡単な言葉でいいのです。「いいね」「ちゃんとしてるなあ」「羨ましいなあ」といった、自分の気持ちをそのまま表した言葉でいいのです。そういった言葉をふわっと投げかけるだけで、相手は嬉しくなります。嬉しくなったら、それで十分です。ほめられたのと同じです。

だからたとえば、「ありがとう」とか「助かった」といった何でもないひと言でもいいのです。言ってもらっただけで嬉しくなるような言葉はすべて、ほめ言葉です。そう考えていくと、「ほめる」というのは温かい言葉をかけることなんだとわかってきます。短くて簡単なコミュニケーションですね。

「よくやったね」、「あなたのおかげ」、「あのときは嬉しかった」、「それ、おもしろいね」、「元気そう」、「たいへんねえ」、「お疲れさま」、「調子はどう？」、「よかった」など、誰に対しても、温かい言葉をかけられる人でありたいものです。

冬の感染症に注意しよう！

今、新型のコロナウイルスの感染拡大が続く中国では、患者の数が2万人を超えたほか、死亡した人も425人に上っています。全世界的にみると、2003年にアジアを中心に拡大しましたSARSの感染拡大を超える勢いとも言われています。伊万里でも薬局にはマスクが品切れ状態になっています。

本校でもインフルエンザA型の流行で、先週2年2組を2日間、学級閉鎖にしました。しかし、まだインフルエンザの流行がおさまったとは言えません。他にも冬の感染症であるウイルス性胃腸炎いわゆる嘔吐下痢症にかかった生徒もいます。

もうすぐインフルエンザB型の流行も始まります。感染予防は、自分でやるしかありません。

学校では各教室に消毒薬を常備しています。マスクの着用も呼びかけています。子どもたちにもしっかりと感染予防させていただくように、よろしくお願ひします。

医学的根拠がない情報

✗ 緑茶や紅茶を飲む
ニンニクや唐辛子を食べる

感染予防策

手洗い アルコール消毒 せきエチケット

出典：筑元新聞オンライン 1/21(金)

全国都道府県駅伝 佐賀県チーム4位の快挙！

1月19日に、全国都道府県対抗男子駅伝が開かれ、佐賀は好調な走りを見せ見事4位でゴールしました。都道府県対抗男子駅伝は広島市の平和記念公園をスタート・ゴール



に48キロ・7区間で争われました。佐賀は序盤から好調な走りを見せ2位で3区にタスキをつなぎました。途中、順位を落としますが、アンカーの粘りの走りで見事4位と8年ぶりの入賞、さらに県の過去最高タイムを更新する快挙を成し遂げました。

本校の3年生、松尾宥汰くんも6区、区間12位の力走で佐賀県チーム4位に大いに貢献しました。全国に「佐賀」「啓成」の名前を挙げてくれました。本当にお疲れ様でした。